

「最も危険な駅」は JR 飯田橋

視覚障害者の調査まとまる（日本盲人会連合）

盲導犬を使用する男性（55）の地下鉄ホーム転落死亡事故を受け、日本盲人会連合と東京都盲人福祉協会（以下、日盲連）は「危険と思われる都内の駅ホーム実態調査（アンケート）」を行った。JR ほか私鉄など計 55 駅について結果を公表。実名で示したのは日盲連として初めてという。

東京メトロ青山一丁目駅事故から 16 日後の 8 月 31 日～9 月 5 日に調べた。日盲連点字 JB ニュースや都盲協のメーリングリストをもとに、危ないと思っている駅やその体験など 5 項目を質問。東京都（53 人）と大阪府（2 人）の計 55 人の視覚障害者、ガイドヘルパーら晴眼者 2 人から回答を得た。うち盲導犬の利用者は 3 人だった。

その結果、危険だとしたのは JR、私鉄、東京メトロ、都営線の計 55 駅（表 1）。乗降客や視覚障害者の利用の多い駅、事故のあと日盲連も現場を視察した青山一丁目駅を走る銀座線など、ホームの狭い駅が目立つ。

東京以外では、大阪市営地下鉄の我孫子駅（改札に入って直進すると転落の恐れ）や JR 千葉駅（アナウンスが少ない）などに対し注文が出た。

危険な体験としては 21 項目が挙がった（表 2：重複回答）。また、鉄道会社への要望は 33 項目に上った（同）。「ホームドアの設置」（27 人）が一番多く、次に「駅監視員の増員」（12 人）、「ホームのアナウンスを分かりやすく」（6 人）が上位に入った。

視覚障害者関連の 6 団体は 9 月 6 日に第 1 回「鉄道駅ホームの安全問題意見交換会」を開催。そのあと記者会見した日盲連の竹下義樹会長は、「盲導犬がいれば安心・安全だと思い込んでいた。事故はショック。これから駅の実態調査をし改善点を国や鉄道会社へ提案していく」と述べた。

表 1 「危険と思われる駅ホーム」上位 3

人数	駅名	路線	理由（概要）
① 10 人	飯田橋	JR 中央線・総武線	駅自体がカーブし、ホームは狭い。電車とホームの間隔が広く、高低差 20 センチの所も
② 8 人	新宿	JR 山手線・中央線	人が多く、ホームドアがない。線路側に押される
③ 3 人	渋谷	JR 山手線	ホームと電車間の高差、空洞が大きい
	御茶ノ水	JR 中央線・総武線	同一ホームの総武、中央線乗り換え時、段差が怖い。改札への階段の裏側で頭を打つ
	新宿	小田急線	ホームドアがあつたりなかったりする

表 2 「ホームでの危険な体験」上位 3

人数	事案（概要）
① 22 人	人や物などと衝突したり、音が聞き取りにくく方向感覚をなくしてホームから転落した
② 8 人	ホームと電車が離れていて足を落とした
③ 8 人	ホームが狭い、通勤ラッシュなど混雑する

また、同席した全日本盲導犬使用者の会の郡司七重会長は、「盲導犬をスーパードッグのように強調し、そのメッセージを社会へ伝えすぎた。『犬には声を掛けしないで』という言葉で、利用者に対するものと取られていた。『何か困っていますか』と声を掛けてほしい」と訴えた。

（福祉新聞・第 2779 号 2016 年 9 月 19 日）